

資料 6

内水面漁場管理委員会
令和5年(2023年)2月24日
滋賀県水産試験場

アユ資源の状況について

1. 魚探による資源調査

①1月期全域調査(トランセクト調査)

- 北湖に設定した21定線上で実施した魚探調査では、小群換算値は49群(平年比42%)と少なかったが、小群未満の魚群も多くあり、推定資源尾数は 2.07 ± 0.48 億尾(平年比84%)となった。

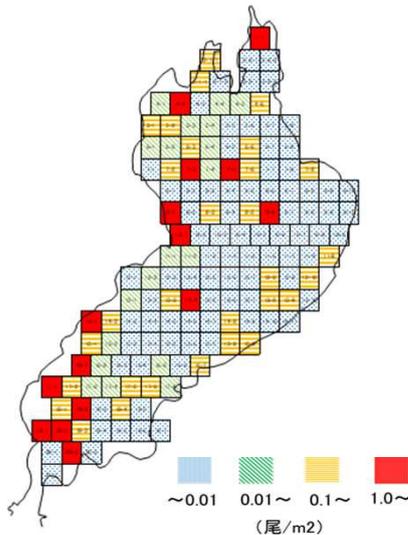


図1. 1月のトランセクト調査による分布密度図

②2月期周回コース

- 水深30m等深線付近の周回コースの魚探調査を2月17、18日に実施した結果、2月の魚群数は45群(平年比27%)となった。(1月の魚群数は142群、平年比79%)

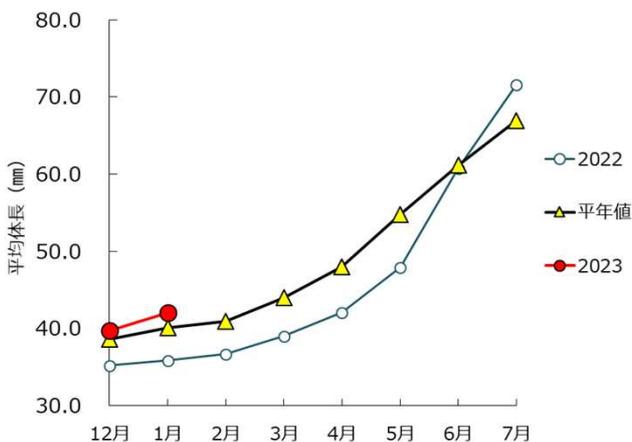


図2. 2月の周回魚探調査結果

2. 漁獲アユの体型

①エリ漁獲アユの体長

- 平均体長は12月から平年値をやや上回り、1月の平均体長は42.1mm(平年比105%)となった。



②エリ漁獲アユの肥満度

- 肥満度は昨年より高いものの平年値を下回り、2.46(平年比89%)となった。

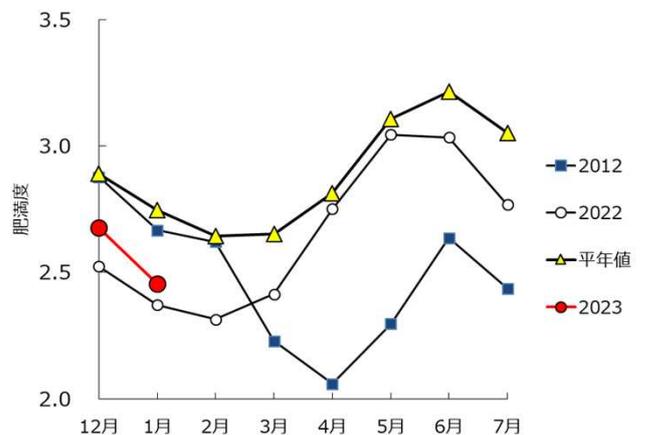


図3. エリ漁獲アユの体型

3. 湖水温の状況

- 冬季の湖水温はアユの成長に影響し、極端な低水温はアユ資源の減耗をもたらす。
- 今年の水深10m層湖水温(5地点平均)は、これまで平年値をやや上回った状態で推移している。

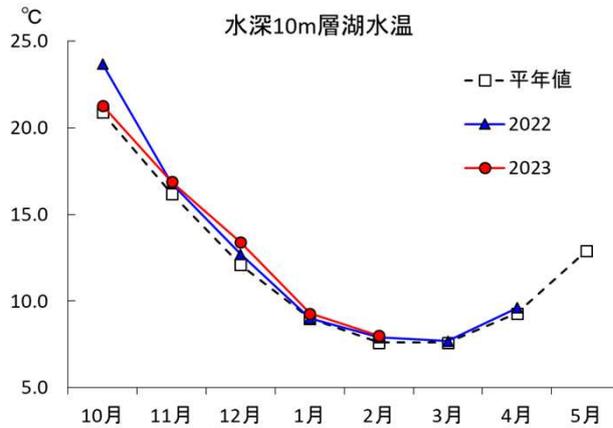


図4. 水深10m層湖水温 (5地点平均)

4. 餌料プランクトンの状況

- 現在、エリで漁獲されている平均体長42mm程度のアユの餌は、主にケンミジンコ類であるが、成長にともない、大型のミジンコ類の割合が増えていく。
- ケンミジンコ類の生息密度は、1月を除いて平均を上回って推移している(2月:平年比144%、昨シーズン比1.6倍)。
- 大型ミジンコ類の生息密度は、12月までは平均を上回って推移していたが、1月以降は平均以下に減少している(2月:平年比11%、昨シーズン比16倍)。

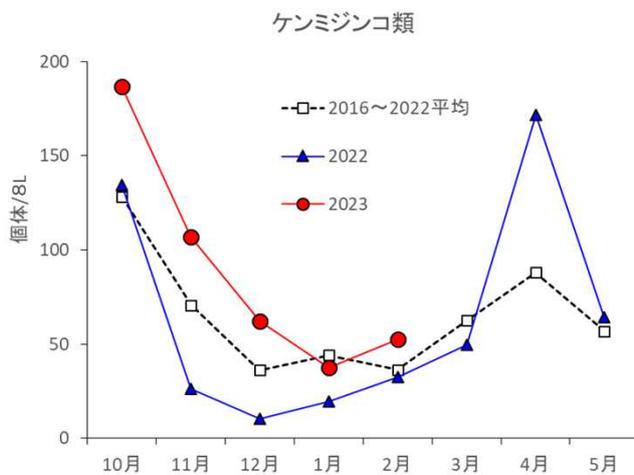


図5. ケンミジンコ類の生息密度

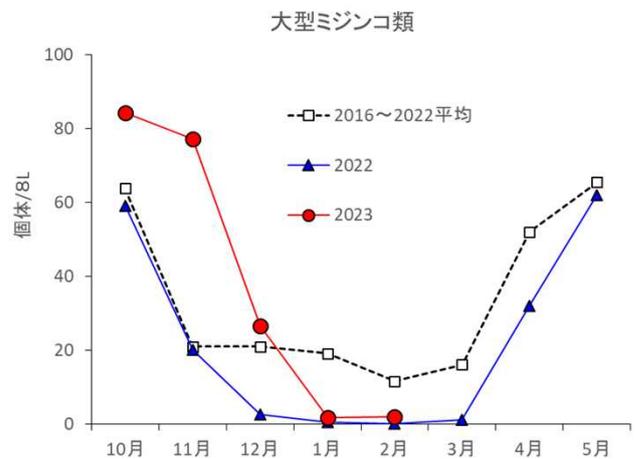


図6. 大型ミジンコ類の生息密度